D-2610
Rotary
Club of KOMATSU

国際ロータリー第２６１０地区
小　松　ロータリークラブ

クラブ紹介

１９４９年(昭和２４年)日本のロータリーがＲＩに復帰を許されると同時に、大戦の反省からかロータリーの趣旨に共鳴してＲＣの設立が澎湃として全国的に高まった。石川県においても金沢ＲＣが音頭をとり小松・七尾に設立を呼び掛けた。

金沢ＲＣ会長嵯峨保二氏(北国新聞社長)は小松ＲＣ設立のキーマンに河村栄太郎氏(小児科医・医博・文博・金沢女子短大教授)に白羽の矢を立て小松ＲＣの設立を勧告した。河村氏はこれに答え真剣に取り組み、ようやく２２名の賛同を得た。

(創立総会とチャーターナイト)５５年８月１１日それまでロータリーのロの字も知らなかった小松にロータリーの灯がともされることになった。ＲＣは所在地域を小松市・能美郡・江沼郡とし、例会日を木曜日、例会場を北國銀行西町支店、事務所を北国新聞社小松支局内として設立、ＲＩへの加盟を申請、同年１０月７日承認を得、国内１６１番目に創立、１６２番目に承認、地区内で５番目、県内２番目の小松ＲＣが誕生した。

チャーターナイトは翌５６年５月１３日芦城小学校体育館において開催。小松新聞特集号によれば、会員３５名、来賓・参加者１５０名のもと盛大に挙行され、ここに小松ＲＣ名実ともに独り立ちした。

当初、クラブ組織は標準定款・細則に拠っていたものの実際の運営は試行錯誤の連続、よって基盤固めのため河村氏が初代、２代、３代、６代と会長を務め、幹事は初代が竹田一郎氏、３代から９代までが近沢五三氏（いずれも北国新聞小松支局長）爾来、会員は幾多の出入りを経ながら現在は６０名、拡大の面でも能美・加賀・小松東・小松シテイ各ＲＣのスポンサーとなり、地区大会、地区協議会等のホストを引き受け、1983～‘84年度には伊東清雄会員を、1997～‘98年度には仲谷純三会員(のち小松シテイＲＣ)を、2013～‘14年度には湯浅外志男会員を地区ガバナーに送り出した。1990年には地区で初めての女性会員、新滝淳子氏を迎え入れている。

また親睦・奉仕活動・国際理解・世界平和運動にもそれなりの活動を実践と自負している。

バナーの由来

小松の名所と言えば安宅の関跡。安宅と言えば歌舞伎十八番の勧進帳。その最後のシーン弁慶の六法と見送る富樫を配し、地色は濃緑、背景に白山を描き下方にKOMATSUと記したのが現在のバナー。

創立後１４年を経た１９７０年それまでのを改めて製作。デザインは当時の会長・副会長・幹事３人の苦心の作。